19　文章作成の実際⑶　④構想表をもとに文章を書く［構成／執筆］

　ここまで、文章を書く手順として

　①主題を決める。

　②主題を分析して材料をそろえる。

　③材料の順序を考えて構想表を作る。

　④構想表をもとに文章を書く。

の③まで学習してきました。

　この章では、復習を兼ねて、まず③の構想表を作って、そのあと、いよいよ④の段階の文章を書きます。

〈主題のために必要なことがら〉

Ａ「待ち合わせで遅刻すると、相手に迷惑をかける」

　→その具体例（事実）

Ｂ「信用をなくす」

　→その具体例（事実）

Ｃ「時間の約束は守るべきだ」

　→この主張（意見）

　→この意見の理由（理由）

意見文の基本的な型

Ⅰ事実

　意見につながる自分の経験、

　または新聞や本で知った知識

Ⅱ意見

　事実を踏まえた自分の意見

Ⅲ理由

　意見が正しい理由の説明

「事実」のポイント

　その事実を読んだだけで、意見がわかるようなものがよい。

　例　事実＝練習を十分にしないで、卓球の大会に出場したが、いつもの力が出せなかった。

　　　　　　↓

　　　意見＝練習を十分にしてから大会に出場すべきだ。

「理由」のポイント

　理由は、ある条件の場合だけにあてはまるのではなく、一般的にあてはまるものであること。

　例　意見＝他人がいやがることを言うべきではない。

　　　よい理由＝いやがることを言うのは、その人の人格を無視していることになる。それは許されないことだから。

　　　よくない理由①＝いやがることを言うと、その人が怒り出してケンカになるから。

　　　よくない理由②＝いやがることを言ったために、この間、親にしかられたから。

　　（よくない理由は、①②どちらも特別な場合のことで、一般的な場合には理由として成立しない。）

　　下書き・メモ

レッスン１　次の主題の文章（意見文）を書くことにする。上段の〈主題のために必要なことがら〉を参考に、次の構想表を完成させよう。

【主題】待ち合わせで遅刻すると、相手に迷惑をかけるだけでなく、信用をなくすことになる。時間の約束はきちんと守るべきだ。

【構想表】

Ⅰ　事実

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  |  |  |

　ヒント　事実は、自分の意見に有利なものであること。また、自分が実際に経験したり、人から聞いたりしたことを書くとよい。

Ⅱ　意見

|  |
| --- |
|  |

Ⅲ　理由

|  |  |
| --- | --- |
|  |  |

レッスン２　レッスン１で作った構想表に従って、文章を書きなさい。

|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |  |

【解答】

レッスン１（例）

　Ⅰ事実＝待ち合わせで友人が遅刻した。

　　　　　そのために、コンサートに間に合わなかった。

　Ⅱ意見＝時間の約束は守るべきだ。

　Ⅲ理由＝相手に迷惑をかけるから。

　　　　　時間にルーズな人間と思われて信用をなくすから。

レッスン２（例）

　友人とコンサートに行ったときのことである。会場の入り口で開演十分前に待ち合わせをした。ところが、開演時刻の間際になっても友人が来ない。少しして、バスに乗り遅れたというメールの連絡があって、結局、二十分遅れてやって来た。そのため、コンサートの始まりに間に合わなかった。私はそのコンサートを楽しみにしていたので、友人の遅刻に腹が立った。これ以降、その友人とは時間の約束をするのを避けるようにしている。（事実）

　待ち合わせをしたときなど、相手に遅れられると不愉快になる。時間の約束をしたときには、決して遅れることのないように注意しなければならない。（意見）

　なぜなら、遅刻をすると、相手に迷惑をかけるだけでなく、信用をなくしてしまうからである。まず、待ち合わせで遅刻すると、その後に予定していた行動に支障が出てしまう。せっかくの楽しみが奪われたり、次の仕事に間に合わなくなったりして、相手に迷惑をかけることになる。さらに、遅刻をすることで、自分が時間にルーズな人間だと見られてしまうおそれがある。その結果、相手から信用されなくなることも起こる。待ち合わせの時間はきちんと守るようにすべきである。（理由）

（別の解答例）

　中学のとき、仲のいい友達六人で、テーマパークに行くことになり、最寄りの駅で待ち合わせをした。みんなとても楽しみにしていて、当日、絶対に遅刻しないでおこうと固く約束をした。ところが、その日に限って、私は朝寝坊をして、四十分も遅刻した。謝る私にみんなは、「失敗は誰にでもあるから」と言ってくれたが、いくつかのアトラクションを楽しめなくなって、不愉快に思っていることは明らかだった。あれから三年たったが、その友人たちは私のことを「時間にルーズな人間」と言う。遅刻で失った信用を取り戻すのは難しい。（事実）

　待ち合わせに遅刻された側からすれば、遅刻は、許しがたい行為である。時間の約束は守らなければならない。（意見）

　時間を決めて待ち合わせをするのは、その後の行動の予定を考えているからだ。遅刻をすれば、当然、その計画がだめになってしまう。一人の遅刻のために約束した友人たちが迷惑をこうむる。お金なら弁償ができるが、一度失われた時間は取り戻せない。そのため、遅刻をした人間に対して不愉快さと不信感が生じる。そして、その不信感は簡単にはなくならないのである。（理由）